

OVSアクセラレーション基本ソフトウェアに関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願い致します。

1. 仮想化環境のマイグレーション機能の制限について

仮想化環境の機能である、マイグレーション機能が制限となっています。

2. LANカード(100GBASE)(PY-LAHM11/PYBLAHM11L)について

LANカード(100GBASE)のLEDが動作するには、`fj-ovs-accel-init-port.service`、`fj-ovs-accel-openvswitch.service`、`fj-ovs-accel-ras.service`が稼働している必要があります。

リンク状態の監視は約5秒間隔です。リンク状態の変化を検出し、LEDに反映するまで5秒以上かかります。

LANカード(100GBASE)のリンク状態にかかわらず、一時的にLEDが点灯/消灯、Speed LEDがアンバー点灯となる場合がありますが、通信には影響はありません。

装置の再起動中はLANカード(100GBASE)のリンク状態にかかわらず、LEDが点灯したままとなる場合があります。

データ送受信時にActivity LEDは点滅しませんが、通信には影響はありません。

3. ソフトウェアプラットフォームのUbuntuについて

OVSアクセラレーション基本ソフトウェアを動作させるOSとして、Ubuntuはご利用できません。

4. OVSアクセラレーションの設定変更時のOS再起動について

OVSアクセラレーションポートの設定ファイル（ポートの有効化/無効化およびケーブル種別）およびOVSアクセラレーションの設定ファイル（CPUコア割り当ておよびスタンドアロンモードの設定）を変更する場合は、OSの再起動が必要になります。

5. フロー削除による一時的な性能低下について

明示的に設定したフロールールではなく通常のレイヤー2スイッチのルールに従って登録されたアクセラレーター用フロー参照テーブルのルールは、ルールに含まれるMACアドレスがエージアウト(デフォルト300秒)する際に削除されます。再度アクセラレーター用フロー参照テーブルのルールに登録されるまでパケット処理は一時的にソフトウェア処理となります。また、ルールの数やパターンによってオフロードしたフローの管理処理が重たくなり、ホストOSで動作する仮想スイッチが過負荷になる場合があります。その際、仮想スイッチは動作を安定させるためにオフロードしたルールを強制的にすべて削除します。強制削除中はアクセラレーターへのオフロードができないためパケット処理は一時的にソフトウェア処理となります。これらソフトウェア処理の間はパフォーマンスが低下するためご注意ください。

`fj-ovs-accel-nstat` コマンドにてパケットがアクセラレーターまたはソフトウェア処理されていることを確認できます。確認方法はOVSアクセラレーション基本ソフトウェアユーザズガイドの「MACアドレス学習テーブルのエージアウト時のパフォーマンスについて」の確認例をご覧ください。また、強制削除の開始と終了のログについてはユーザズガイドの「A.5 ovs-vsitchd のログ」をご覧ください。強制削除が頻発する場合、仮想スイッチが定常的に過負荷になっているため、本装置に流入するネットワークトラフィックの見直し（例えば、本装置増設によるトラフィックの軽減）をご検討ください。

6. ポート初期化処理中のLANカード(100GBASE)(PY-LAHM11/PYBLAHM11L)について

LANカード(100GBASE)は、ポートの初期化処理中にリンクアップ/ダウンを繰り返します。接続相手の設定によっては、ポートの状態が不安定と判断し、ポートをダウンのままとする場合があります。その場合は接続相手の設定を見直してください。（例：Cisco製品におけるLinkFlapErrDisabledの設定）

7. OVSブリッジへのポート作成の順序について

OVSのブリッジへポートを作成する際は、物理ポート→仮想ポートの順に作成してください。

物理ポートの設定が無い状態で最初に仮想ポートを作成し、ネットワークトラフィックが発生した場合、装置が停止する可能性があります。

8. ゲストOSのメモリ容量制限について

ゲストOSとして動作させる仮想マシンをOVSアクセラレーションの仮想スイッチに接続して使用する場合、仮想マシンのメモリ容量は仮想スイッチへの接続方法によって下記の表に記載された値に制限となります。

接続方法	メモリ容量
VirtIOリフレクターを使用しない仮想スイッチ接続の場合	8GBまで
VirtIOリフレクター(通常モード)を使用する場合	8GBまで
VirtIOリフレクター(コピーモード)を使用する場合 (IPCOM VE2シリーズ含む)	7GBまで

仮想マシンの接続方法の違いについてはユーザーズガイド「4-5-2 仮想マシンと仮想スイッチの通信方法の説明」、ゲストOSのメモリ容量の設定方法についてはユーザーズガイド「2-7 仮想マシンの作成」をそれぞれご覧ください。また、VirtIOリフレクターをお使いになる際はユーザーズガイド「2-6-10 VirtIOリフレクターの設定」をご参照の上、メモリ容量としてCPUソケット当たり1024MBを指定してください。

以上